

事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

1 事務事業の概要

事務事業名	分倍河原駅周辺整備事業			事務事業コード	40630500
概要	分倍河原駅周辺地区の整備に関する計画を作成し、事業を推進する。				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	都市整備部 地区整備課
	施策	63	駅周辺整備事業の計画的推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成29年度～	見直しの裁量
根拠法令等	都市計画法、府中市地域まちづくり条例				
市関連事業					
対象	鉄道事業者、駅利用者、市民				
実施の背景	府中駅周辺の中心市街地を補完する拠点であり、かつ重要な交通結節点である分倍河原駅周辺地区においては、市街地環境上の課題や交通環境上の課題を抱えており、その解決を市民から強く要望されている。				
事業目標	分倍河原駅周辺地区において、まちづくりと連携した交通施策を展開し、同地区のまちづくりを着実に遂行する。				
事業内容	分倍河原駅周辺地区を対象として策定した、府中市都市・地域交通戦略に掲げた施策を推進するとともに、同地区における用途地域の見直しや地区計画の導入の検討など、土地利用も含めたまちづくりの基本計画の検討を行う。また、基本計画に基づくまちづくりの施策を推進する。				

2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 分倍河原駅周辺地区まちづくり基本計画の策定 地区計画等検討会の運営 (2回) まちづくり協議会の運営支援 (1回) 分倍河原駅の改良及び自由通路整備に向けた調査・検討 分倍河原駅周辺の基盤整備計画の設計等 鉄道事業者と事業範囲等を定めた覚書を締結 	<ul style="list-style-type: none"> 分倍河原駅周辺のまちづくりを推進するため、まちづくり協議会やオープンハウスで地元住民と意見交換を行い、まちづくり基本計画を策定した。 地区計画等検討会を開催し、まちづくりのルールを検討を行った。 府中市都市・地域交通戦略に基づき、市道4-159号の改良を行った。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 府中市都市・地域交通戦略に基づく、施策の推進 地区計画等検討会の運営及びまちづくり協議会の運営支援 事業用地取得に向けた測量の実施 分倍河原駅改良及び周辺施設整備に関する調査設計の実施 市道の改良整備に係る予備設計等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 分倍河原駅周辺のまちづくりを推進するため、まちづくり誘導計画の検討を行う。 府中市都市・地域交通戦略推進協議会を開催し、施策の推進を図る。 事業用地取得に向けて権利者との交渉を進める。 鉄道事業者との基本協定の締結に向け、計画案を深度化する。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 都市・地域交通戦略協議会の開催 (2回) まちづくり協議会の運営支援 (2回) 地区計画等検討会の運営 (4回) 事業用地取得に向けた測量の実施 分倍河原駅改良及び周辺施設整備に関する調査設計の実施 市道の改良整備に係る予備設計等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地区計画等検討会にてまちづくりルールの検討を行った。 事業用地の取得に向けて一部範囲の用地測量を実施した。 鉄道事業者を協議を進めるとともに、駅改良及び周辺施設整備に関する調査設計を実施した。 市道4-139号及び駅北西アクセス道路の整備にむけた予備設計等を実施した。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 府中市都市・地域交通戦略に基づく、施策の推進 地区計画等検討会の運営及びまちづくり協議会の運営支援 事業用地取得に向けた測量の実施 分倍河原駅改良及び周辺施設整備に関する調査設計の実施 事業周知のためのヴァーチャルリアリティ (3次元データ) の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 分倍河原駅周辺のまちづくりを推進するため、まちづくりルールの検討を行う。 都市・地域交通戦略推進協議会を開催し、施策の推進を図る。 事業用地取得に向けて権利者との交渉を進める。 基本協定の締結に向けて、鉄道事業者と協議を進める。

令和5年度における事業の位置付け		A	分倍河原駅周辺整備事業は、第7次府中市総合計画前期基本計画の重点プロジェクトに位置付けられ、事業化に向けて市内の連携を強化し、重点的に取り組む必要がある。今後、地域住民や事業者との協働により当該地区のまちづくりを実現するためには、取組みを拡大すべき事業である。
A 重点化・拡大して継続			
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等	1 休止 2 廃止 3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現 状 分 析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当 初 予 算 額	25,680,000	69,360,000	115,671,000	61,750,000	148,241,000	72,066,000
国庫支出金	3,567,000	0	0	0	0	0
都 支 出 金	0	0	50,000,000	15,000,000	75,000,000	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	11,400,000	0	1,900,000	37,697,000	65,100,000
一 般 財 源	22,113,000	57,960,000	65,671,000	44,850,000	35,544,000	6,966,000
予 算 現 額	25,680,000	58,234,000	80,313,000	61,750,000	81,398,000	0
決 算 額	22,738,077	58,111,052	78,798,720	56,046,001	77,388,108	0
国庫支出金	2,300,000	0	0	0	0	0
都 支 出 金	11,650,000	19,920,000	34,410,000	15,400,000	38,000,000	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	1,900,000	0	0
一 般 財 源	8,788,077	38,191,052	44,388,720	38,746,001	39,388,108	0
執 行 率	88.5%	99.8%	98.1%	90.8%	95.1%	0.0%
(人件費)						
職 員 数	0.00	3.20	3.50	6.00	6.00	
職 員 人 件 費	0	25,126,944	28,111,843	46,431,216	46,543,764	
月額制会計年度任用職員数	0	0.5	0.5	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	1,557,401	1,545,462	0	0	
(間接経費)						
間 接 経 費	0	1,711,376	528,583	541,296	2,095,557	
総 コ ス ト	22,738,077	86,506,773	108,984,607	103,018,513	126,027,429	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<ul style="list-style-type: none"> ▼平成30年に都市と交通の総合的かつ戦略的な施策を示した、府中市都市・地域交通戦略を策定した。令和2年度には、施策の進行を管理するため、都市・地域交通戦略推進協議会を設置した。(2回開催) ▼地域住民にまちづくりの状況を周知するため、まちづくりニュースを発行した。(16回) ▼まちづくりのルール策定に向けて具体的な検討に取り組むため、平成31年3月と令和2年12月にまちづくりに関するアンケート調査を実施し、その結果をまちづくりニュースにより地域住民へ周知を図った。また、令和元年度に地区計画等検討会を設置した。(12回開催) ▼地元住民からのまちづくりの提言を踏まえ、令和2年7月に地区全体の具体的な施策を示した分倍河原駅周辺地区まちづくり基本計画を策定した。
今後の課題・展開(未達成の課題・具体的な方策等)
<ul style="list-style-type: none"> ▼分倍河原駅周辺は、南武線及び京王線による地域の分断や駅北側の商業地及び駅前空間に課題がある。このため、地区の回遊性を高め、にぎわいのあるまちにするとともに、地域住民や駅利用者の利便性を向上するため、駅を中心とした都市基盤の整備を行う。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	40	15	05	1059200	都市・地域交通戦略（分倍河原駅周辺地区）推進協議 会運営費	126,000	93,044	124,000
2	01	40	15	05	1062550	分倍河原駅周辺整備計画策定費	17,702,000	13,574,000	12,731,000
3	01	40	15	05	1087720	分倍河原駅周辺整備事業費 測量設計委託料	130,413,000	63,721,064	28,811,000
4	01	40	15	05	1087740	分倍河原駅周辺整備事業費 建設工事費			30,400,000
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							148,241,000	77,388,108	72,066,000

事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

1 事務事業の概要

事務事業名	多磨駅改良整備事業			事務事業コード	40630600
概要	多磨駅の橋上化及び自由通路の整備				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	都市整備部 地区整備課
	施策	63	駅周辺整備事業の計画的推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成29年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市鉄道駅整備事業補助金交付要綱				
市関連事業					
対象	鉄道事業者、駅利用者、市民				
実施の背景	鉄道施設のバリアフリー化及び多磨駅の改良整備に対する、市民からの要望があるため。また、多磨駅が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の自転車ロードレースの会場最寄り駅となったため。				
事業目標	駅舎の橋上化とあわせて、東西駅前広場をつなぐ自由通路を整備し、バリアフリー化した安全で快適な移動経路を整備する。				
事業内容	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や、駅東側での大規模商業施設の開業を見据え、多磨駅の駅舎改良及び自由通路整備を推進する。				

2 事業計画・評価

R2年度実績 (Do)	R2年度評価 (Check)	評価内容 B	現状のまま継続
▼自由通路及び橋上駅舎は、令和2年12月に供用を開始した。供用開始後は、既存構造物の撤去工事等を行った。	▼自由通路及び橋上駅舎の供用を開始した。		



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R2年度評価に基づく見直し (Action)

R3年度の具体的な取組 (Plan)	R3年度の方向性 (Plan)
▼既存構造物の撤去工事や外構工事等を行う。	▼事業完了に向け、引き続き工事を実施する。

R3年度実績 (Do)	R3年度評価 (Check)	評価内容 B	現状のまま継続
▼既存構造物の撤去工事や外構工事等を行った。	▼既存構造物の撤去工事や外構工事等を行い、事業が完了した。		



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R3年度評価に基づく見直し (Action)

R4年度の具体的な取組 (Plan)	R4年度の方向性 (Plan)

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	D	令和2年12月に多磨駅の橋上化とともに東西地域を結ぶ自由通路を整備し供用を開始した。供用開始後は、既存構造物の撤去工事や外構工事等を行い、事業が完了した。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない		
2 見直しには法令等の改正が必須		
3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	3	
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することが なじまないため、特に指標の設 定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	8,950,000	258,925,000	1,141,985,000	1,510,175,000	404,887,000	0
国庫支出金	0	35,112,000	298,700,000	42,647,000	0	0
都支出金	0	14,364,000	106,225,000	468,379,000	114,011,000	0
市債	0	0	261,400,000	445,000,000	65,000,000	0
その他	0	165,000,000	435,600,000	501,600,000	216,000,000	0
一般財源	8,950,000	44,449,000	40,060,000	52,549,000	9,876,000	0
予算現額	10,100,000	258,245,000	598,555,000	1,147,383,000	226,185,000	0
決算額	8,705,818	246,664,237	556,358,859	1,097,838,045	226,102,136	0
国庫支出金	0	31,900,000	21,250,000	37,915,000	0	0
都支出金	4,290,000	25,340,000	227,014,000	399,085,000	54,614,000	0
市債	0	0	150,000,000	390,000,000	0	0
その他	0	159,700,000	84,600,000	222,600,000	108,000,000	0
一般財源	4,415,818	29,724,237	73,494,859	48,238,045	63,488,136	0
執行率	86.2%	95.5%	93.0%	95.7%	100.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.00	3.20	3.50	3.00	2.00	
職員人件費	0	25,126,944	28,111,843	23,215,608	15,514,588	
月額制会計年度任用職員数	0	0.5	0.5	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	1,557,401	1,545,462	0	0	
(間接経費)						
間接経費	0	1,711,374	528,583	1,898,648	698,519	
総コスト	8,705,818	275,059,956	586,544,746	1,122,952,301	242,315,243	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>▼H29年3月に西武鉄道(株)と「西武鉄道多摩川線多摩駅における自由通路整備及び鉄道施設改良に関する基本協定」を締結し、設計、埋蔵文化財発掘調査、本体工事、自由通路整備に伴う駅付帯施設の移設・撤去及び線路棒線化に伴う関連工事を着実に進めることができた。</p> <p>▼自由通路及び橋上駅舎は、令和2年12月に供用を開始した。</p> <p>▼供用開始後は、既存構造物の撤去工事や外構工事等を行い、事業が完了した。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1076105	負担金 鉄道駅整備事業費 (債務負担行為解消分)	79,334,000	57,215,943	
2	01	40	15	05	1077055	補助金 鉄道駅整備事業費 (債務負担行為解消分)	98,907,000	59,307,490	
3	01	40	15	05	1077060	補助金 鉄道駅整備事業費	20,799,000	16,200,000	
4	01	40	15	05	1087506	多磨駅改良整備事業費 測量委託料	2,200,000	2,118,233	
5	01	40	15	05	1087545	多磨駅改良整備事業費 埋蔵文化財発掘調査委託料	12,738,000	0	
6	01	40	15	05	1087575	多磨駅改良整備事業費 建設工事委託料 (債務負担行為解消分)	190,909,000	91,260,470	
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							404,887,000	226,102,136	

事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

1 事務事業の概要

事務事業名	けやき並木周辺整備事業			事務事業コード	40640100
概要	けやき並木通りのモール化に向けた周辺道路及びけやき並木通りの整備				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	都市整備部 道路課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成20年度～	見直しの裁量
根拠法令等	道路法、宮西町地区道路整備計画、国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護管理計画				
市関連事業	馬場大門ケヤキ並木保護対策事業				
対象	道路利用者				
実施の背景	馬場大門のケヤキ並木の植生や景観に配慮した周辺環境を創出するため、けやき並木通りのモール化を進める必要がある。また、けやき並木通りの石積がケヤキの良好な生育を阻害している。				
事業目標	けやき並木通りのモール化を進めるため、宮西町地区道路整備計画を推進する。また、国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護管理計画に基づき、ケヤキの根に影響する石積を撤去するためけやき並木通り植樹帯石積改修を実施する。				
事業内容	けやき並木通り植樹帯石積改修工事の実施 市道4-10号拡幅整備事業の推進 市道4-11号拡幅整備事業の推進 市道4-12号拡幅整備事業の推進 市道4-14号拡幅整備事業の推進 市道4-488号新設整備事業の推進 市道4-503号新設整備事業の推進				

2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼けやき並木植栽帯改修工事 ▼市道4-503号新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 ▼市道4-503号新設工事 ▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号については、用地取得に向けて交渉を継続した。 ▼市道4-10号の一部を、道路区域とした。	▼けやきの良好な育成のため、改修及び新設工事整備事業を計画通り実施することが出来た。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号については、用地取得に向けて交渉を継続する。	▼引き続き用地取得交渉を進め、けやき並木周辺整備事業を推進する。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号については、用地取得に向けて交渉を継続した。	▼計画通り用地取得に向けて交渉を実施し、市道4-10号において、用地を取得した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▼市道4-10号、4-12号、4-14号、4-488号については、用地取得に向けて交渉を継続する。 ▼市道4-11号については、東側区間の計画道路区域を決定し用地取得に向けての交渉に着手する。	▼引き続き用地取得交渉を進め、けやき並木周辺整備事業を推進する。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	用地交渉は時間を要するため継続して行っていく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	23,100,000	30,600,000	169,559,000	51,398,000	0	5,843,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	3,935,000	0	0
市債	0	14,000,000	109,000,000	0	0	0
その他	0	0	41,000,000	0	0	5,000,000
一般財源	23,100,000	16,600,000	19,559,000	47,463,000	0	843,000
予算現額	20,694,000	27,165,000	164,434,000	51,672,000	0	0
決算額	20,693,880	26,386,079	160,903,600	41,258,648	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	27,935,000	0	0
市債	0	13,000,000	103,000,000	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	20,693,880	13,386,079	57,903,600	13,323,648	0	0
執行率	100.0%	97.1%	97.9%	79.8%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	2.20	1.40	1.40	0.96	0.68	
職員人件費	16,899,573	10,993,038	11,244,737	7,414,017	5,296,359	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
(間接経費)						
間接経費	729,146	488,292	491,089	489,327	436,819	
総コスト	38,322,599	37,867,409	172,639,426	49,161,992	5,733,178	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<ul style="list-style-type: none"> ▼市道4-10号、市道4-14号、市道4-488号、市道4-503号の道路事業用地を取得した（財産活用課） ▼市道4-10号、市道4-11号、4-12号、市道4-14号の一部区間の拡幅整備を行った ▼ケヤキの良好な育成のため、植栽帯石積改修工事及びけやき並木通りの舗装改良工事を実施した ▼市道4-10号、市道4-11号、市道4-14号、市道4-488号、市道4-503号の区域変更 ▼市道4-10号、市道4-14号、市道4-488号、市道4-503号の建基法42条1項4号の指定（建築指導課） ▼市道4-503号新設工事
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> ▼新設・拡幅に伴う関係権利者の協力及び財源確保 ▼事業の長期化に伴う関係権利者の対応

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	40	10	15	1055700	けやき並木周辺整備事業費 測量設計委託料			5,843,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計									5,843,000

事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

1 事務事業の概要

事務事業名	馬場大門ケヤキ並木保護対策事業			事務事業コード	40640200
概要	国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木の保護対策事業				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	文化スポーツ部 ふるさと文化財課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	法定事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成11年度～	見直しの裁量
根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、府中市文化財の保存及び活用に関する条例				
市関連事業	けやき並木周辺整備事業				
対象	国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木				
実施の背景	市のシンボルでもある国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木が衰退しているため、その保護に必要な対策を検討し、実施している。				
事業目標	本市のシンボルであるケヤキ並木が、将来にわたって、いつまでも健全な状態で保護され、府中市のシンボルとしてふさわしい景観を保全する。				
事業内容	平成20年2月に策定した保護管理計画に基づき、ケヤキ並木の保護対策を実施するため、毎年春・秋2回の全樹木の巡回調査とそれに基づく対策の策定と他課への指導をする。また、全樹木に管理用の樹名板の設置、全樹木の樹高、胸高周囲を記録し成長、衰退度合いを数値化するなどの対応をとる。				

2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
春と秋の巡回監視を実施し、密度管理や保護管理の面から伐採の対象となる木については、緊急性を考慮しながら、関係課と連携して対応した。また、都立農業高校の協力のもと取り組んできた、補植に必要な苗木の育成が順調に進捗し、3月に同校と連携協定を締結するとともに、植樹を行った。	巡回監視を実施しながら、次世代木を多く、後世に伝えていけるよう保護管理を行うとともに、保護更新に向けたプロジェクトの試行的取組を、都立農業高校の協力により、実施することができた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
例年同様、春と秋の巡回監視を実施し、密度管理や保護管理の面から伐採の対象となる木については、緊急性を考慮しながら、関係課と連携して対応する。また、都立農業高校との連携による、種からの苗木育成の取組は継続し、今後は、一小・一中とも連携しながら、「小中高の連携」によるケヤキ並木の保護・更新を一層進めていく。	巡回監視を実施しながら、次世代木を含めたケヤキ並木全体の保護管理を行っていく。保護更新プロジェクトとして、「小中高の連携」による取組を一層進めていく。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
春と秋の巡回監視を実施し、安全管理の面から伐採が必要な場合には、関係課と連携して、速やかに対処した。また、台風の激甚化・頻発化など近年の気象傾向を踏まえ、落枝・倒木対策を強化し、枯損木の除去とともに、ケーブリング(樹木サポートロープ)などの対策も講じた。連携協定を結ぶ都立農業高校との「保護更新プロジェクト」を推進し、府中第一小学校、府中第一中学校とも連携の輪を広げ、小中高連携による、ケヤキ古木の種拾いや、後継樹育成に係る種まきを行った。	巡回監視を実施し、ケヤキ並木の保護と安全対策の一層の強化とともに、小中高連携による次世代後継樹の育成に係るプロジェクト推進を着実に図ることができた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
引き続き春と秋の巡回監視を実施し、台風や強風に伴う落枝・倒木対策などの安全対策を、関係課と連携して対応する。併せて、経年に伴う保護管理計画の見直し作業を進める。また、小中高連携による「保護更新プロジェクト」を推進し、種拾いや苗木育成など、次世代後継樹育成に係る取組を継続していくほか、改築に伴う新校舎竣工(第一中学校・第八小学校)に合わせた、同プロジェクトで育成したケヤキ苗木の植樹を行い、市のシンボルである当地ケヤキに係る普及啓発を図る。	定期的な巡回監視を通じ、ケヤキ並木の保護とともに、安全対策も図っていく。併せて、策定から約15年が経過する保護管理計画の見直し作業に取り組み。また、小中高連携による、次世代後継樹の育成に係る「保護更新プロジェクト」を一層推進し、府中市のシンボルとしてふさわしい景観の保全に努める。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	A	令和6年度に国天然記念物指定から100周年の節目を迎えるケヤキ並木では、近年、古木の衰えや台風による倒木などが見られ、既存樹木への適切な保護対策と次世代後継樹の育成に一層取り組む必要がある。そのため、日常管理のほか、土壌改良による樹勢回復なども継続的に行っていく必要がある。また、策定から約15年が経過する保護管理計画についても経年に伴う見直しに取り組む必要がある。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
次世代に古木となるけやき 後継樹の本数	130	計画 当初値	130	130	140	150	次世代に古木となるけやき後継樹の本数は、木の管理を進めた結果、本数が少なくなったため、現在古木から採取した種から生育する試行的な取組を進めている。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	本 実績	130	128	129	128	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	本 実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	1
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	3,344,000	10,448,000	3,328,000	3,151,000	3,648,000	3,759,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	3,344,000	10,448,000	3,328,000	3,151,000	3,648,000	3,759,000
予算現額	3,344,000	8,898,000	3,328,000	3,151,000	3,648,000	0
決算額	3,322,080	8,862,480	3,293,680	3,150,680	3,575,000	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	3,322,080	8,862,480	3,293,680	3,150,680	3,575,000	0
執行率	99.3%	99.6%	99.0%	100.0%	98.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.65	0.65	0.50	0.40	0.40	
職員人件費	4,993,056	5,103,911	4,015,978	3,095,414	3,102,918	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
(間接経費)						
間接経費	22,774	58,521	71,131	9,580	8,821	
総コスト	8,337,910	14,024,912	7,380,789	6,255,674	6,686,739	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
馬場大門のケヤキ並木保護対策事業は、平成20年2月の保護管理計画策定以後、その計画に基づいた保護対策を実施してきた。平成20年度以降の保護対策業務では、枯死木の伐採、危険木の対応、並木全体の現状確認と樹木診断、土壌硬化度の測定や土壌水分計による調査、伐採した樹木の年輪の年代確認と保存等を行った。また、けやき並木通りの開発事業に対するケヤキ並木の保護に関する行政指導を実施した。平成29年度には、保護管理計画の見直しを行い、補植に向けた準備として、都立農業高校に協力いただき、ケヤキの種の収集、苗木の育成という試行的な取組を行った。平成30年度は、2つの台風の被害により、古木を含む3本のケヤキを伐採した。令和2年度は、これまでケヤキの種から苗木育成に取り組んできた都立農業高校との連携協定を締結し、「保護更新プロジェクト」として、苗木の植樹を行った。令和3年度には、同プロジェクトを推進し、府中第一小学校、府中第一中学校とも連携の輪を広げ、小中高連携により、ケヤキ古木の種拾いや、後継樹育成に係る種まきを行った。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史があり、市のシンボルであるケヤキ並木を守り、次世代へと継承していくため、未来ある若者や子どもたちとともに、ケヤキの種子の収集や、苗木の育成・補植、地域活性化などに取り組む、「ケヤキ並木保護更新プロジェクト」の更なる推進が、日常の管理や危険木対策などとともに、ケヤキ並木の保護更新に必要である。 ・国指定天然記念物馬場大門のケヤキ並木は、国内唯一の国指定のケヤキ並木で、府中のみならず日本国民にとっても貴重な文化財である。東京の市街地にあるケヤキ並木を、いかに将来にわたって保護していくか、土地所有者、沿道の住民・学校や事業者と協働で、積極的に取り組んでいくことが肝要と考えている。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	10	1528100	馬場大門ケヤキ並木保護対策事業費	3,648,000	3,575,000	3,759,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							3,648,000	3,575,000	3,759,000

事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

1 事務事業の概要

事務事業名	けやき並木通り車両交通規制事業			事務事業コード	40640300
概要	けやき並木の歩行者専用道路化に付随する試験的な車両交通規制の実施				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	生活環境部 地域安全対策課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成22年度～	見直しの裁量
根拠法令等					
市関連事業	けやき並木周辺整備事業				
対象	市民及び府中駅周辺の買い物客等				
実施の背景	市民の安全な歩行空間の確保と、けやき並木と調和した魅力あるまちづくりの推進及びけやき並木の将来にわたる保護・保存を目標とする「けやき並木歩行者専用道路化」の試験的事業として、けやき並木通りの車両交通規制が求められた。				
事業目標	けやき並木通り車両交通規制の実施により、安全な歩行空間が確保され快適な空間となることで、多くの人が集い・憩い、けやき並木通り周辺ににぎわいが生まれます。				
事業内容	歩行者の安全確保と車両の誘導を行うことを目的とした警備業務の委託（日曜日及び祝・休日に実施）。				

2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大国魂神社前交差点までの間	けやき並木通りの車両通行規制を通常通り実施することができた。委託業者には業務報告書の作成を依頼し、提出してもらうことで現場状況の把握に努めた。また、年2回の交通量調査を実施し、けやき並木通りにおける交通量の把握に努めた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大国魂神社前交差点までの間	車両通行規制の周知に努め、けやき並木通りの活用に合わせた有効な車両通行規制を実施する。今後も委託業者との関係を密にし、通常の車両通行規制やけやき並木通りで開催されるイベント等に支障のないよう努めていく。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大国魂神社前交差点までの間	けやき並木通りの車両通行規制を行うことにより、市民の安全な歩行空間を確保することができた。また、車両通行規制の実施にあたり、運転手に対して適切な規制の周知に努めた。委託業者には業務報告書の作成を依頼し、警備状況の把握に努めた。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽けやき並木通りの車両通行規制の実施 ・規制日時 毎週日曜日及び祝・休日の12時～18時 ・規制区間 けやき並木通りの国際通り入口先から大国魂神社前交差点までの間	市民の安全な歩行空間の確保及びけやき並木の保護、保存を目的に、引き続きけやき並木通りの車両通行規制を適切に実施する。今後も委託業者との関係を密にし、通常の車両通行規制やけやき並木通りで開催されるイベント等に支障のないよう努めていく。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	市民の安全な歩行空間の確保及びけやき並木の保護、保存を目的に、引き続きけやき並木通りの車両通行規制を適切に実施する。今後も委託業者との関係を密にし、通常の車両通行規制やけやき並木通りで開催されるイベント等に支障のないよう努めていく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	2
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	4,512,000	4,578,000	4,998,000	5,106,000	5,106,000	5,106,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	4,512,000	4,578,000	4,998,000	5,106,000	5,106,000	5,106,000
予算現額	4,512,000	4,578,000	4,998,000	5,106,000	4,854,000	0
決算額	4,059,937	3,854,953	4,238,095	4,424,420	4,406,902	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	4,059,937	3,854,953	4,238,095	4,424,420	4,406,902	0
執行率	90.0%	84.2%	84.8%	86.7%	90.8%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.40	0.60	0.60	0.56	0.56	
職員人件費	3,072,650	4,711,302	4,819,173	4,352,927	4,363,478	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
(間接経費)						
間接経費	34,432	72,822	63,519	67,490	76,975	
総コスト	7,167,019	8,639,077	9,120,787	8,844,837	8,847,355	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>規制区間の延伸について、近隣住民の理解も得られたことから、平成26年6月1日（日）より延伸規制を開始し、交通規制箇所での歩行者の安全確保及び車両誘導を行った。 また委託業者に月に1回業務報告書の作成を依頼し、提出してもらうことで、現場状況の把握に努めた。 委託業者との連携を密にし、通常の車両交通規制やけやき並木通りで開催されるイベント等に支障のないよう努めた。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>車両交通規制の周知徹底を図るとともに、将来的には、交通規制の日時の拡大も視野に入れながら、「けやき並木歩行者専用道路化」の試験的事業の一つとして、けやき並木と調和した魅力あるまちづくりの一端を担う効果的な車両交通規制を検討していく。 今後も連携を密にし、トラブル等発生した際には早急に対策が取れる体制を整えていく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	10	05	40	0167500	けやき並木通り車両交通規制事業費	5,106,000	4,406,902	5,106,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							5,106,000	4,406,902	5,106,000

事務事業評価シート

記載年月	令和4年9月
対象年度	令和3年度

1 事務事業の概要

事務事業名	中心市街地活性化基本計画推進事業			事務事業コード	40640400
概要	中心市街地活性化事業				
総合計画	基本施策	2	まちの拠点整備	主管部課名	生活環境部 産業振興課
	施策	64	けやき並木と調和したまちづくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成27年度～	見直しの裁量
根拠法令等	中心市街地の活性化に関する法律				
市関連事業					
対象	府中駅周辺地区				
実施の背景	府中駅周辺において、エリアマネジメントの取組等を行い、地域の活性化を後押しする必要がある。				
事業目標	中心市街地活性化基本計画に掲げる指標の達成に向け、一般社団法人まちづくり府中と連携しながら、中心市街地の活性化を図り、市内全域への波及を目指す。				
事業内容	<p>中心市街地活性化基本計画に掲げる指標（大規模商業施設の年間販売額、東京競馬場タイアップ年間利用組数、公共施設年間利用者数）を達成すべく、次の事業を実施する。</p> <p>▼中心市街地にぎわい創出事業（東京競馬場タイアップ事業、竹あかりおもてなしライトアップ、けやき並木を活用したにぎわい創出事業（マルシェ）等）</p> <p>また、指標の達成状況の把握、及び内閣府への定期フォローアップ報告を行うべく、次の事業を実施する。</p> <p>▼中心市街地活性化基本計画推進事業（歩行者交通量調査、空き店舗調査、内閣府への定期フォローアップ報告）</p>				

2 事業計画・評価

R 2年度実績 (Do)	R 2年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量調査（24,416人）、空き店舗調査（47店舗）等を行った。 定期フォローアップ調査の実施 竹あかりライトアップ事業、まちバル事業、飲食店支援事業としてクラウドファンディングを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により、歩行者交通量は前年度比より減少しているが、空き店舗数については減少傾向にある。 新型コロナウイルスの影響により、当初実施予定であった、競馬場タイアップ事業や、キテキテ府中マルシェは中止となったが、代替案として、まちバル事業やクラウドファンディングを実施し、中心市街地における回遊性の創出に寄与した。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 2年度評価に基づく見直し (Action)

R 3年度の具体的な取組 (Plan)	R 3年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 定期フォローアップ調査の実施 竹あかりライトアップ事業や大規模商業施設オープンに併せた、回遊性創出事業の実施 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成イベント等の実施 府中市中心市街地活性化基本計画後の中心市街地の位置づけを定めるビジョンの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化基本計画の指標調査を実施する。 竹あかりライトアップ事業や大規模商業施設オープンに併せ、回遊性を創出する事業を実施し、中心市街地のにぎわいを創出する。 動向を注視しながら、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成イベント等を実施する。 中心市街地の位置づけを定めるビジョンを作成する。

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量調査（23,976人）、空き店舗調査（52店舗）等を行った。 まちバルタイアップ回遊性創出事業の計画（中止）を行った。 大規模商業施設オープンに併せて「WELCOME FUCHU WEEK」を設け、店舗紹介冊子を作成・配布及び各種イベントを実施した。 オリパラ関連事業として「WELCOME FUCHU フラワーカーペット」を展示した。 「府中市中心市街地活性化ビジョン」を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量は前年度よりやや減少となったが、目標値は上回る結果となった。空き店舗数については、長引くコロナ禍の影響があつてか、前年比で微増となった。 大規模商業施設のオープンやオリパラに併せてイベントを実施し、中心市街地のにぎわいの創出に寄与した。 「府中市中心市街地活性化ビジョン」を策定し、最新の社会情勢や時代背景に即した、新たな取組の方向性を示した。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> けやき並木等で各種マルシェや竹あかりライトアップ事業等の実施。 競馬場タイアップ事業やまちバル等の府中市内をめぐるイベントの実施 休日の歩行者交通量調査、空き店舗数調査を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> けやき並木・ベデストリアンデッキで各種マルシェ等を実施し、中心市街地のにぎわいを創出する。 府中市内をめぐる仕掛けをつくる競馬場タイアップ・まちバルを実施し、回遊性を創出する。

令和5年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	A	令和2年度に引き続き令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の事業が中止となったが、引き続き、動向を注視しながら、にぎわいの創出に係る事業を実施する必要がある。コロナ禍からの復興や高齢化社会などの社会問題を解決し、持続可能なまちづくりを実現していくために、中心市街地活性化ビジョンに基づき中心市街地の活性化に継続的に取り組む必要がある。
B 現状のまま継続		
C 見直しで継続		
D 休止・廃止等		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
休日のけやき並木の歩行者 交通量	25,500	計画 当初値	22,000	22,000	22,000	22,000	現時点では、実績値が目標値を上回る結果となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に抑え、目標の達成を目指す。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	26,232	28,330	24,416	23,976	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	19,485,000	20,304,000	59,487,000	46,644,000	64,657,000	33,006,000
国庫支出金	3,497,000	7,036,000	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	4,100,000	13,500,000
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	19,800,000	12,100,000	27,000,000	0
一般財源	15,988,000	13,268,000	39,687,000	34,544,000	33,557,000	19,506,000
予算現額	28,209,000	30,284,000	59,487,000	31,477,000	46,119,000	0
決算額	28,208,320	30,281,860	50,109,500	27,158,000	32,800,000	0
国庫支出金	3,493,800	7,036,200	0	0	0	0
都支出金	1,200,000	0	0	0	12,870,000	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	19,700,000	0	0	0
一般財源	23,514,520	23,245,660	30,409,500	27,158,000	19,930,000	0
執行率	100.0%	100.0%	84.2%	86.3%	71.1%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.15	2.35	0.60	2.50	2.70	
職員人件費	8,833,868	18,452,600	4,819,173	19,346,340	20,944,694	
月額制会計年度任用職員数	0	0	0	0	0	
月額制会計年度任用職員人件費	0	0	0	0	0	
(間接経費)						
間接経費	1,857,848	1,378,048	372,206	869,310	575,065	
総コスト	38,900,036	50,112,508	55,300,879	47,373,650	54,319,759	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<p>定期フォローアップ調査について、歩行者交通量は令和2年度以降の調査では新型コロナウイルス感染症の影響により交通量が減少した。令和3年度においても、前年度に比べて微減となったものの、基準値を上回る結果となった。空き店舗数について、令和3年度は長引くコロナ禍の影響があつてか、前年比で微増となった。未だ先行きが見通せない状況であるため、引き続き空き店舗数の動向は注視する必要がある。竹あかりライトアップ事業は、市民ボランティアにも制作に携わっていただき、多くの方に好評をいただいている。大規模商業施設のオープンに併せて実施した「WEL COME FUCHU WEEK」では、駅前をフラッグやバルーン等で装飾し、府中駅周辺の店舗紹介冊子を作成・配布等したこと、府中を訪れた方に楽しんでいただき、再来訪を促す取組を行った。また、オリパラ関連事業としてフラワーカーペットを展示し、市内外の方に府中を知っていただくきっかけを作った。</p>
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
<p>一般社団法人まちづくり府中が設立されたことにより、中心市街地の活性化に向けたソフト事業が充実されてきているものの、まちづくり会社の確たる収益が見込めないことから、市からの委託事業が大半を占めている。今後は、未利用市有地の効果的な活用を始め、まちづくり会社の収益事業確立に向け、必要な支援を行い、中心市街地の活性化及び市全域への波及を目指す。</p> <p>なお、今後、新型コロナウイルス感染症による影響により、中心市街地の活性化が減退することが予想されるため、収束後の活性化について、検討する必要がある。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 3年度		R 4年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	35	05	05	0934700	中心市街地にぎわい創出事業費	58,432,000	26,575,000	26,781,000
2	01	35	05	05	0934800	負担金 まちづくり府中	10,000	10,000	10,000
3	01	40	15	05	1058010	中心市街地活性化基本計画推進事業費	6,215,000	6,215,000	6,215,000
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							64,657,000	32,800,000	33,006,000